

YKD代替え石種紹介！

フレッシュマン・オカザキのインド通信

お世話になっております！

以前よりお伝えしているインド環境規定問題(EC 問題 =Environment Clearance)、早々に集結すると思われていましたが、未だ各丁場に多大な影響を及ぼしています。実際に我々が注文している原石にも遅れが発生しております。ご注文頂いているお客様にはご迷惑おかけしてしまい、大変申し訳御座いません。ようやくいくつか動きが出てきてはいるので、収束も近いのではないかと考えております。引き続きご愛顧の程、宜しくお願い致します。

「EC問題」 その影響は超がつくほど安定していたお手頃な黒御影の代表格**「YKD丁場」**にまで及んでいました。つい先日まで出荷規制がかかっており、「中国の在庫が逼迫している！」なんて情報を耳にされたお客様もいらっしゃるのではないのでしょうか？ **最新の情報によりますと、丁場は出荷自体再開していますが、税率アップにより 20%以上 の値上げを断行したとの情報も入ってきております。その影響で中国各工場の単価はみるみるうちに引き上げられ、「YKD」は高級黒御影にランクアップ(?) してしまいました。。**

そこで、これまでも中国工場よりインド産のお手頃な黒御影はいくつか提案されてきましたが、どれも目合いが綺麗でなかったり、問題が多かったりと**「YKD」**ほど定着していないのが現状です。今回は**ワタシ目線でチョイスした**

中国工場で加工できる**有望なお手頃代替え黒御影**をいくつかご紹介したいと思います！

※インド・中国ともに不安定なお国柄です。「**ワタシ目線でチョイスした有望石種**」である事は間違いありませんが、突然問題が発生し供給がストップする可能性もありますので、ご理解とご協力の程を宜しくお願い致します。

【KMS】

産出地：インド タミルナドゥ州

最長尺/最大角：8尺/5x5尺

YKDと同じタミルナドゥ州産の石で、色も濃くサイズも取れる石です。ただ金点が少し嘸むので、その点はご了承頂きたいところ。原石も確認しましたが、それ以外大きな問題は見当たりませんでした。



【クンナムーN】

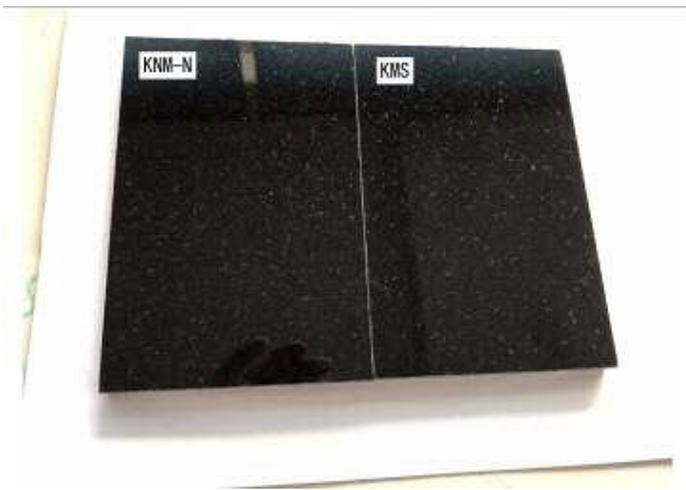
産出地：インド タミルナドゥ州

最長尺/最大角：6尺/4x4尺

名前は「クンナム」とついでいますが、本物の「クンナム」ではありませんのでご注意ください。しかし、「クンナム」丁場群からはそれほど離れていないようです。

目合いも似ているので、「YKD」の代替えというより、工場は「クナム」の代替えとしてオススメしています。「クナム」の各本丁場も調子が悪いところもあり、EC問題に直面しているので、その選択肢としても一考の余地があるかと思います。値上げ前の「YKD」とあまり差のない単価ですが、金点がないので石質は先にご紹介した「KMS」より比較的良いと言えるのではないかと思います。しかし、長尺・角回りは他の紹介石種に比べて弱く、板目と柁目の差があるので注意が必要です。

↓クナム-NとKMSの比較写真です。



【MAG】

産出地：タンザニア

最長尺/最大角：5尺/3x3尺

ラストエンバグ・インパラブルーなどの銘石を輩出するアフリカから新たに登場です！ とは言え、実は以前も中国で出回った事のある石です。当時はキズの問題がある原石を中国商社がまとめて購入しており、問題が多く出た為そこまで普及する事はありませんでした。しかし、最近になり丁場の調子が良くなったようで、**工場イチオシの新石種**となっています。

細目で地色が青っぽく、アフリカ産の特徴とも言える硬質で艶ハリの良い石です。
しかし、まだ在庫があまり多くないようで、長尺と角回りが採れる石が入っていません。8月頃に入荷するようなので、吉報を待ちたいと思います。



インド方面の大きなニュースをもう一つ。EC問題に続く大きな懸念が、今月ついに発表されました…。

GST税制改革、施行

インド政府は以前より取り組んでいたGST(Goods and Services Tax=間接税)の改革が7月1日より施行する事が正式に発表されました。

これはインド独立後最大の経済改革として、1200を超える物とサービスの税率が固められ、今まで州ごとに異なっていた間接税を「GST」として統一する事で、企業にとっては税務処理の簡素化や物流の効率化が可能となります。また、現在も州境で横行している無数の悪習(役人への賄賂)を減らし、今まで遅延が多く発生していた現状が改善され、ビジネスがより活発になると期待されています。

…というのは政府の説明。

複雑だった税制が統一化されることで全体的にコストを下げられる… 本当
そうなるとは信じていない弊社のインド協力会社は**GSTの導入により、更に税率が
上げられるのではないかと**、戦々恐々というのが実情のようです。。

詳しくは再度調査の上ご報告致しますが、インドで大きな税制改革がされるという
事だけでも頭に入れて頂ければと思います。ご迷惑おかけしますが、宜しくお願い
致します。

**気を取り直して、続いてはインド工場加工のお手頃な
黒御影をご紹介します！**（このままでは中国メルマガになってしまうの
で…笑）

インド加工であれば上記のような中国工場紹介の有望石種と同等、**もしくは
更に良質な石種を**、更にお手頃な単価でご提供する事が可能です！

今回はインド工場推薦の黒御影として二つの石種をご紹介します！



↑目合は他とあまり遜色ありません。

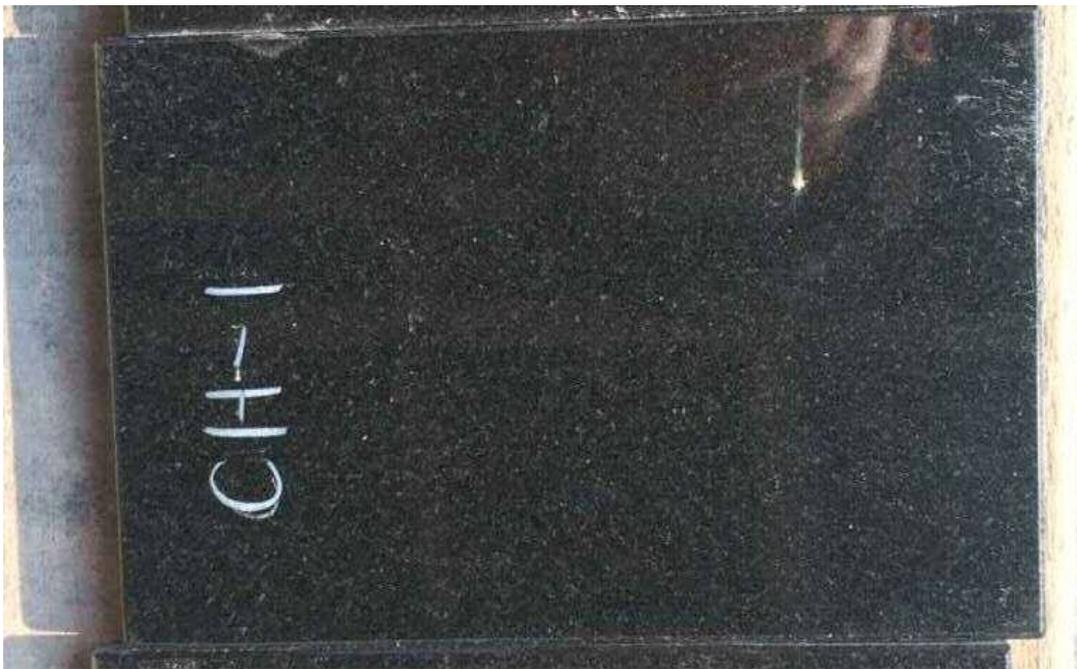


↑尺角の天板。大材はお早めに！

インド工場推薦：在庫量限定 500 才、お値打ち価格で
ご提供させていただきます！ **その名も、「GJB」**

正直なところ、「とても良質です！」**とは言**い難く、艶のいが少し悪いのですが、**地色は濃く角周りや長尺も問題ありません！**(最大角:4.5 尺 x4.5 尺程度、最長尺:7 尺程度) 外柵にととても向いている石種と言えます。**お手頃黒御影の中でダントツに安いお値段が出ることが可能なのではないかと思います！**

また、継続性のあるお手頃黒御影をお求めの方にはこちら↓↓



その名も「CN-1」。以前ご紹介させて頂いた石種ですが、こちらも工場が値段を少し調整してきました！

上の「GJB」よりは少々お値段が上がってしましますが、**目合いは細かく、艶のい・色も良く、角周り長尺は「GJB」以上です！**(最大角:5 尺 x5 尺程度、最長尺:9 尺程度)

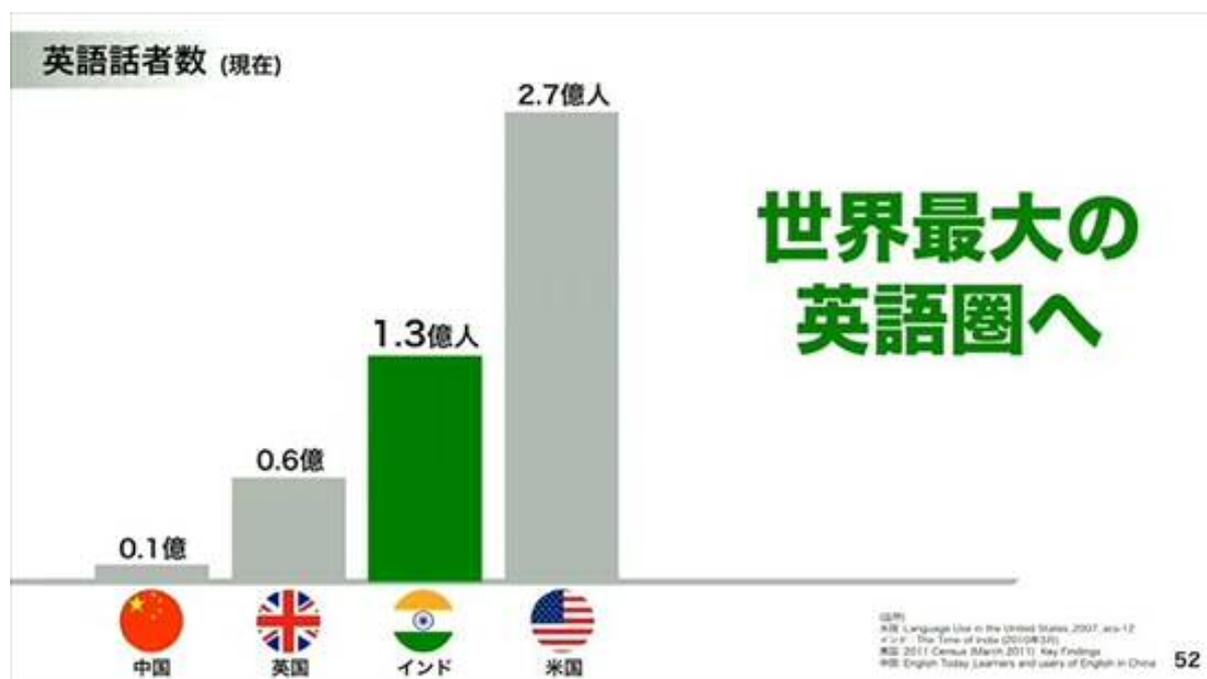
「GJB」は在庫量限定、「CN-1」もキャンペーン期間限られておりますので、ご興味のある方、お早めにご連絡頂けると幸いです！

サンプルのご用命、単価は弊社担当営業員まで！

さて！最後に息抜きインドネタにいきましょう！

インドではヒンディー語に次ぐ準公用語として英語が定められており、現地の言葉と併せて英語が日常的に使われています。

しかし、世界各地で使われる英語が、現地の言葉の影響を受けてそれぞれ特徴を持っているように、インドの英語にも独自の特徴があります。また、その特徴を活かしたインド式英語学習法の本も書店などでよく見かけますね。



↑英語話者人口がなんと世界二位なんていうデータもあります。

今回は、「インド英語の特徴」を私が聴いた言葉の実例も踏まえてご紹介致します！

1. インド英語は綴りどおりに読む

英語では、アルファベットの綴りどおりに読まなかったり、綴りに含まれているアルファベットをあえて発音しないことがよくあります。

しかしインド英語の最大の特徴は、「綴りどおりに読む」という事です！

例えば、「**park (公園)**」

一般的にこの単語を読むときは、アルファベットの“r”は発音しません。カタカナにすると「パーク」となります。しかし、これを読んじゃうのがインド英語なのです！インドの方は“r”もきちんと発音し、park は「パルク」に近い音になります。その他にも、air (空気) は「エアル」、paper (紙) は「ペーパル」、Wednesday (水曜日) は「ウェドゥネステイ」などのように聞こえるのがインド英語なのです。

インド英語に慣れていない頃は、相手が何を言っているのか全くわからず、綴りを言ってもらってやっと理解する、ということをよくやっていました(笑)。

2. インド固有の数字表現

お金やデータを読むときに重要なのが、数字の区切りの単位です。インドでは「**Lakh (ラク)**」と「**Crore (クロール)**」という単位をよく使います。

例えば、5 Lakh だったら 50 万、3Crore だったら 3000 万という意味となり、インドでは英語圏で使われる million(100 万)や billion(10 億)よりもこの単位で区切る方が一般的となっています。

「**ハリウッド俳優〇〇の結婚式の総費用はなんと 5crores !!**」といったように、ゴシップ誌の見出しでもよく使われていたり、インド工場との会話などにも良く出てきます。

3. 単語の使い方

インドで英語が使われるようになったのは、イギリス植民地時代にさかのぼります。その為、インド英語はイギリス英語と似ている部分が多いのですが、たまに耳慣れない表現が使われることもあります。例えば以下のようなものがあります。

「**Hotel**」： 宿泊施設としての意味もちろんありますが、通常レストランや食堂のことを指します。



← レストランの看板。

「**Shoppe**」： 古い英語で“shop”を意味するのですが、今でもお店の看板に書かれていることがあります。私はそれまで shoppe という言葉の存在を知らなくて、初めて見たとき「ずいぶん派手なスペルミスだなー」なんて思っていました（笑）。

「**parcel**」： もともと「小包」を意味しますが、インドではお店で食べ物を買ってお持ち帰りするときに使います！ お店の人が英語を話せないとき、お持ち帰りを意味する「To go」や「Take away」は通じなくても、parcel といえは大体通じます。

以上、私が感じた「インド英語の特徴」でした。

少々変わっているように思えますが、何度も聞いているといつのまにか慣れてきて、簡単に聞き取れるようになります。しかし慣れ過ぎてしまうと私のようにインド英語のみしか使えなくなってしまうので、本場の英語圏の方との交流が難しくなってしまいます…。昔は発音が綺麗と褒められていたのですが、過去の栄光になってしまいました… (泣)

それでは今月はこの辺で失礼します。

最後まで読んで頂き、有難うございました！

2017/07/01 オカザキ